



利用者の意見を大切に スマートシニアライフ事業 開催機運の醸成 幅広い年代への浸透を 2025年万博

—加治木府議の2月定例会の質疑・質問より

加治木一彦府議は3月11日の府議会総務常任委員会でスマートシニアライフ事業や万博に向けた機運醸成などについて質疑・質問をしました。概要は以下の通りです。

スマートシニアライフ事業は高齢者を対象にタブレット端末を使い、買い物代行や配食、健康診断など日常生活の様々なサービスを官民連携で提供するものです。

府域全体での展開を目指し、泉北ニュータウン、大阪狭山市、河内長野市の府内3か所で1000人を対象に半年間、実証試験をします。利用者の意見をしっかりと聞き、よりよいサービスを提供できるよう求めました。

2025年の大阪・関西万博に向け、今年は開催3年前、1000日前の節目を迎えます。府内市町村と連携した機運醸成の一つとして、市町村の公用車へロゴステッカーの貼付や万博のPR動画の提供などを進めるとのことです。また、開催の意義やテーマについて、児童・生徒向けポスターや高校生向けの冊子などで幅広い年代への浸透を図ります。

このほか、国際金融都市、グリーンボンドの発行、大阪スマートシティパートナーズフォーラム、副首都ビジョンのバージョンアップ、府庁の組織再編などを取り上げました。



▲万博会場のイメージパス



▲万博会場となる夢洲を視察(2021年12月)



▲総務常任委員会で質疑する加治木府議

この日の様子は府議会ホームページの動画配信でご覧いただけます。→

大阪府議会ホームページ ▶ http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai_giji/toppage/index.html



活動日誌より

1月 大阪市生野区

14

大阪府立生野支援学校は1967年創立、今年度は知的障がいのある小中高校生376人が在籍しています。

創立以来の校舎は半世紀以上が過ぎたため老朽化が目立つようになり、教室や職員室などが手狭になっています。同校は近くにある府立大阪わかば高校の敷地へ2027年春の新築移転が決まりました。今後も支援学校の学習環境の改善に向け取り組んでいきます。



▲生野支援学校

1月 大阪市淀川区

28

わが母校、大阪市立十三中学校の2年生を対象にしたキャリア教育の授業を見学しました。

この日は小林製薬㈱の広報担当の方が「熱さまシート」を通して自社の製品開発や販売の方針などについて話をされました。生徒たちからは会社に入って面白いことは、などの質問がありました。人から「ありがとう」と言われるのが何よりうれしい、など中学生もわかるよう丁寧に答えられていました。

この授業の実現に当たっては大阪府の「公民戦略連携デスク」に中学校と企業の橋渡しなどで大変にお世話になりました。



▲十三中学校

お知らせ▶



「大阪府議会議員 かじき一彦」

Facebookページにて、議員活動の情報発信をしております。当該ページに「いいね」を押していただき、ぜひご覧ください。



「かじき一彦」のLINE@アカウント
右記QRコードから「追加」で、議員活動の情報発信をしております。

